

クローズアップ

屋上緑化 編

屋上緑化が義務化され屋上に植物を設置した方がいいが、手入れされずに放置され、枯れたような状態になってしまうことも多い。屋上緑化を導入した後に緑化の状態をいかに維持していくかは屋上緑化の1つの課題である。今回は屋上緑化のメンテナンスをどのようにすれば良いのかを紹介する。

大日化成



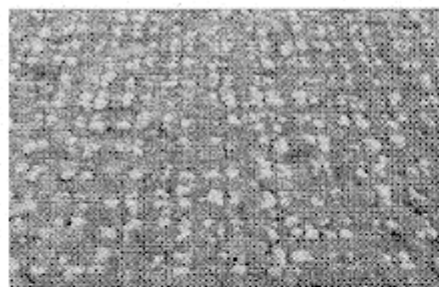
技術部次長
山下 律正氏

何とか安く導入したいと考えている顧客が圧倒的に多いと思います」と語る。

屋上緑化に費用をかけることができる企業はメンテナンスにも力を入れている。しかし、屋上に緑を取り入れたとしても、コストをかけることができない企業は環境を維持することが困難になる場合も出てくる。「屋上緑化の導入前にオーナーと話し合うことができれば良いのですが、大半の方は枯れてから相談にきます」と同氏は語る。植物によってはコストを抑えつつ長く生きる品種もあるそうだ。同社ではオーナーの要望に合わせて多様な緑化資材を提供しているとのこと。

寿命の長い品種を取り入れたとしても、定期的な手入れが行わなければ緑化環境は荒れてしまう。緑の環境を維持するために管理は必要不可欠となってくる。屋上緑化を導入するのであれば、メンテナンスについても

◀ 屋上緑化の様子



の信頼関係を築きながら行うことが大切になる。「当社では有償メンテナンス契約を結んでいるクライアントに毎回屋上メンテナンス報告書を作成し、緑化の健康報告書を渡しています」と同氏は語る。同社が顧客からの信頼を得てきた背景には信頼のおけるメンテナンス体制があるのではないだろうか。

屋上緑化を利用した空間活用が広まっている。コストをかけることができる企業は屋上緑化に力を入れ、空間を活用して街づくりや地域活性化などに事業を展開することができている。しかし、中小ビルを経営する大半のオーナーにとっては屋上に緑化を取り入れるだけで金銭的に苦しい場合もある。屋上緑化が義務化されている地域に限れば、規制対象部分だけはコストを抑えてでも何とかしなければと考えているオーナーも多いようだ。

大日化成(大阪府門真市)は、環境に優しい屋上緑化システムを提供している。同社技術部次長の山下律正氏は「屋上に緑を取り入れたいという気持ちはあるのですが、

メンテナンスについても

「専門的な知識を持たない造園業者に任せても管理は上手いきません。まずはシステムを作

入れたとしても、定期的な手入れが行わなければ緑化環境は荒れてしまう。緑の環境を維持するために管理は必要不可欠となってくる。屋上緑化を導入するのであれば、メンテナンスについても

メンテナンスは、顧客と

環境に優しい屋上緑化システムを提供